

ビロードキンクロ *Melanitta fusca* (Linnaeus)

【選定理由】

冬鳥として主に渥美半島の太平洋側や三河湾側に飛来し、希に伊勢湾や三河湾の奥でもみられる。1980年代半ばまでは普通に見られ、越夏の群れも確認されていたが、近年は個体数が激減し、多くても20羽以下である。

【形態】

全長 51～58cm、翼開長 90～99cm。雄成鳥は、全身が黒色で背にはビロード光沢、目の下には三日月型の白斑があり、嘴は赤くて上嘴の基部にこぶ状の突起がある。雌は、全身が黒褐色で目の前と頬の2箇所白い斑があり、嘴は黒色。次列風切と大雨覆が白く、飛翔時にはよく目立つ。



島根県, 2013年1月4日, 鈴木恒則 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期に渥美半島周辺の遠州灘や三河湾内の海域に生息するが、希に伊勢湾の奥や西三河の沿岸でも見られることがある。

【国内の分布】

冬期に北海道から九州までの大きな湾や外洋沿岸に生息する。

【世界の分布】

北ヨーロッパからシベリア中部で繁殖しヨーロッパ沿岸で繁殖する亜種、シベリア東部からカムチャッカで繁殖し日本、朝鮮半島南部、中国沿岸で越冬する亜種、およびアラスカからカナダ中部で繁殖し、北アメリカ沿岸部で越冬する亜種の3つに分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

冬鳥として通常は渥美半島に面する遠州灘や三河湾の沖合に生息し、希に汐川干潟、豊川河口、西三河沿岸、伊勢湾の奥部などでも記録がある。潜水採餌をし、貝類や甲殻類を捕食するとされる。田原市の三河湾沿岸や内湾の河口などで越夏した例がある。

【現在の生息状況／減少の要因】

1970年代には、越冬期に三河湾の田原市(旧田原町)沖で1,000羽以上、同じく三河湾内で50羽程度の群れの記録があり、1950年代には矢作川河口でも336羽の記録がある。1980年代半ばまでは本種の群れが太平洋の沖合い遠くを飛翔する様子がよく見られた。また、1973年7月には白谷海岸で29羽の越夏群の記録がある。かつては本県の海域で普通に見られた種であるが、近年は太平洋の沖で時により多くても20羽以下が、三河湾内では希に1～数羽が見られる程度となっている。

【保全上の留意点】

外海での減少についてその要因は不明であるが、内湾における減少は餌となる生物の減少が最大の要因と考えられ、貧酸素水塊問題など、餌の貝類や甲殻類の生息に関わる環境の改善が求められる。

【特記事項】

愛知県が報告している「伊勢・三河湾貧酸素情報」では、渥美半島の北側に位置する三河湾は慢性的な貧酸素状態が発生しており、海流の状態などによっては溶存酸素飽和度が、貝類・底生魚類の生存が困難な30%や、全ての底生生物が生存困難な10%という状態も発生している。

【関連文献】

黒田長久, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.78. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)